



2018年 8月213号

ふるさと

グループホームあじさい園

「岡本 太郎」

人は朝目をさますと、いつも自分にぶつかり自分と対面する。必ずふたまたの場所において、どちらかを選択する。私達人間は安全な道を選び自動的に危険を避けて、自分を大事にする方向に行ってしまう。岡本太郎は24歳の時、あれかこれかの場合必ず悪い方、危険な道を選ぶと決意した。必ずマイナスの方に、社会的に自分を殺す方に賭ける。するとモリモリと生命が輝いてくる。つまり強烈に喜びをもって歓喜をもって生きることを選択した。なぜなら世界には幸福じゃない人間がいっぱいいて、彼らと一身同体だと考えれば、もっとさげびもっと活動しなければならぬと考えたから。

戦後自らの芸術活動を対極主義と提唱、新しい芸術は岡本太郎からはじまると宣言、独自の美意識を投影した原色の世界や常識を打ち破る過激な発言で世間を挑発した。岡本太郎のいう三権分立は、モンテスキューの三権分立ではなく、政治、経済、人間(芸術)である。現在の政治や経済に人間は存在せず、社会の虚しさへと通じてしまったため、人間再発見が大切である、と。人間イコール芸術とは絵やうた、文章をかくことが芸術ではなく、芸術は何も表現せず無目的、無償で真剣であることが充実してこの世の中に生きているということ。それが人間であり芸術で、無条件に爆発している、と。

彼は祭りについても語っている。原始時代、人は一年中食うために働いて、ある一定の期間祭りをする。みんな一様に準備をして、演ずる人と見物人の分化もなく、みんなが溶け込み宇宙と合体することく喜んだ。しかし農耕社会となり分業がはじまり市場ができ、専門家がうまれ感動がうすれ大量生産となった。本来祭りは一年間貯めたものを持ちよってすべてを無条件に消費する。その瞬間に生きる喜びを感じ、そこに創造がある。つまり最も強烈な消費をする時に、最も強烈なプロダクション(創造)がなされる、という生きがいがある。彼は、「絵はうまくあつてはいけない、きれいであつてはいけない、心地よくあつてはいけない」と子供たちに教えた。

おそれ多くも岡本太郎の心をのぞくことにチャレンジしてみました。他人の人生や生命に寄りそうことはむずかしいけれど、太郎の目指す、人間再発見の一步かもしれませぬ。

七夕まつり 7月7日

星☆多に願いを込めて.....

短冊に願いことを書いて頂き一人ずつ発表して頂きました。「元気で過ごしたい」「甘いおやつを一杯食べたい」など皆で手を合わせてお願いしました。おやつは葛餅を頂き、七夕の歌を合唱しながら、願いも新たに満足した笑顔で思い思いに七夕を楽しまれました。



8月の行事予定

- 11日(土) 昼食会
- 17日(金) お誕生日会
- 25日(土) お楽しみ会

※塩田医師の定期往診もあります。

あじさい園のホームページもご覧ください。



奈良バサラ祭り

昼食会 (うなぎ) 7月14日



「鰻を食べて暑い夏を乗り切ろう!!」

寿司桶に炊き立てご飯を入れた後、ふわふわでたっぷりの「鰻」をのせ、タレをかけて皆さんに配膳しました。「わぁ～うなぎや」、「好きやねん」、「美味しいわ」と好評の声の中、しっかり完食していただきました。

